子どもの貧困対策に100万円

東濃信金、県に寄付

東濃信用金庫（多治見市）は、平均的な収入の半分に満たない家庭で暮らす「子どもの貧困」対策に充ててもらおうと１００万円を県に寄付した。

同金庫は、地域の将来を担う子どもたちの支援に役立てるため個人・個人事業主向けの「未来定期預金『つなぎあエール』」を昨年11～12月に販売。販売総額に応じ、岐阜、愛知の両県に１００万円ずつを寄せることにした。同様の取り組みは3年連続となり、総額はこれで３００万円になった。同金庫が岐阜県に善意を寄せるのは４年連続。

贈呈式は県庁であり、同金庫の加知康之理事長が目録を手渡した。古田肇知事は「子どもの貧困は厳しい状況にあり、子ども食堂や居場所を必要とする子どもは多い。今一番必要とするところへの浄財。大切に使わせていただく」と感謝した。加知理事長は「地域の子どもたちに（進学などで県外に出ても）地域にまた帰ってきてもらいたいという強い思いを込め、子どもたちの支援を続けていく」と話した。（古家政徳）



古田肇知事に目録を手渡した加知康之理事長（左）＝県庁

無断複製・転載を禁じます